6-16　実践協力校における実践
事例⑯　南足柄市立南足柄中学校
1、2年生　特別活動：学級活動

ポイントになる主な学びのプロセス → **・学級、学校、地域等の課題に気付く**
・他者の考えを聞き、自分の考えを再構築する

Ⅰ　指導計画

1　活動名　　中学校　特別活動　「NMUP！（南中魅力アッププロジェクト！）」

2　活動の目標　南足柄市立南足柄中学校　学校教育目標

夢と希望を持ち進んで学ぶ知性豊かな生徒　他を思いやり共に育つ心豊かな生徒

心身を鍛え粘り強くやりぬくたくましい生徒

・学年を越えて南足柄中学校の魅力をさらに上げるための話し合い活動をすることによって、自分たちの身の回りの生活をよりよくしていこうとする実践的な態度を育てる。
・自己の考えと他者の考えを交流させながら、社会をよりよく変える方法を他者とともにつくっていく力を育てる。

【目指す子どもの姿】
・身の周りの課題について考え、自己の意見を積極的に伝えていこうとする姿。
・自己の意見と他者の意見を尊重しながら話し合いを行い、新しい考えを再構築していこうとする姿。

3　活動を通した指導計画

月	ねらい（◇）・学習内容（◆）
11	◇学校生活を振り返り南中の魅力をさらにアップさせる考えをもつ。さらに**問題意識に応じたテーマを選択**し、**身の周りの課題について考えをもつ。** ◆「魅力ある南中」とはどのような学校か、具体的な取り組みを考える。また、課題を 18 のテーマ（別紙参照）に分け、自分が何を話したいかを考える。
12	◇全員で意見を出し合い、**意見を構築していく**姿勢を育てる。 ◆他者と協働して意見を創っていくためには、お互いが尊重され、他者の意見の表出をうながしていく態度が重要であることを学ぶ。
1	◇身の回りの生活をよりよく変える方法を、**自分のこととして課題をとらえ、自分と他者の意見を交流させて、一緒につくった考えを踏まえ、意思決定する。** ◆それぞれが選択したテーマに分かれて、学年を越えて南中の魅力をさらに上げていくためにできることを話し合い、これからの学校生活で取り組んでいきたいことをワークシートに記入し、自分の意見として再構築していく。
2	◇他者の思いを踏まえた中で、同じ社会で生活する他者とともに、社会に生きる**自分がどのような行動をとるべきかの意思決定させる力を育てる。** ◆話し合いの内容を確認し、意見等があれば投じる活動をするため、各グループで話し合われた内容を廊下に掲示する。また、来年度、南中の魅力をさらにアップさせるために考えた「自分がしたらよい取り組み」をまとめ、掲示する。
3	◇自分たちが考え、**話し合ったことが自分たちの生活を変えていくことを体験し**、よりよい学校をつくるために積極的に参画しようとする姿勢を育てる。 ◆今回話し合った内容の中から、来年度生徒会の活動として取り組んでいくことができる内容を生徒会で話し合い、来年度の生徒会活動に引き継ぎを行う。

ポイント1
身の周りの課題について、気付き、考えるため、自分たちでテーマを創り出す活動を設定する。

ポイント2
ファシリテーターの研修を設定し、自分の意見と他者の意見を尊重し合えるような話し合い活動が行えるようにする。

ポイント3
他者と意見を交流させながら、新しい考えが生まれていくという過程を体験させるために、可視化して提示する。

ポイント4
自分たちが話し合った内容が実際の活動として形作られていくという成功体験をする。

Ⅱ　政治的教養を育むためのポイント

【活動を通して身に付けさせたい力】
・学級、学校、地域等の課題に気付き、主体的にそれを変えていこうとする力
・自己の意見と他者の意見とを交流させることで、新しく、よりよい考えを協働して構築していける力

本実践における「政治的教養を育む教育」につながる活動として想定された展開例

【活動①『南中の魅力をアップさせるための活動を考えよう！』】　学校の課題に気付き、未来をデザインする活動

―あなたにとって「魅力ある南中」とはどんな南中ですか？―

この問いを受けて、生徒たちはそれぞれ自分にとって「魅力ある南中」とはどんな学校かを考え始めた。そこで、さらに、次のような補足の投げかけをおこなった。

―「魅力ある南中」は、実際に生活するみんなにとってだけでなく、なるべく多くの人たちの立場、視点から考えてみよう―　**「次の４月に入学する一年生も魅力ある学校の方がいいよね」「ボランティアで南中のために活動してくださっている人たちにとっては、どんな学校が魅力的だろう」**と、いろいろな「顔」を思い浮かべながら「魅力ある南中」を考えることにより、生徒の「魅力ある南中」像は具体的でイメージしやすいものとなった。

また、例えば、部活動について、「他部と合同で基礎練習をする機会をもつことにより、単独の部活を越えた生徒同士の横のつながりを深めることができ、結果、南中の部活動全体の力を高められるのではないか。」など、生徒ひとり一人が、「18 のテーマ」から、本当に議論したい自分の問題をもち、しっかりと向き合うことができた。

多面的・多角的な視点をもって目指すべき学校をそれぞれが考えたことで、「大きな未来をデザインする活動」は自分たちの身の周りや社会を「こう変えていきたい」と考える社会参画の第一歩となった。

【活動②『意見を出し合い、南中の魅力をアップさせる活動を考えよう！』】他者と協働して考えを構築する活動

自ら選択したテーマに基づき、生徒がファシリテーターとなり、学年を越えた話し合い活動をする計画をしていた。ファシリテーターの研修では戸惑いを覚えていた生徒もいたが、「自分たちが主導して話し合いを活性化して、その場にいるみんなで考えを創っていくんだよ」と伝えると「楽しそう」「かっこいい」といった言葉も出て、積極的に活動に取り組んでいく姿勢が見られるようになった。

この計画を進めていく過程で、**「確かに、そういう考え方もあるね」**と、自分とは異なる考えに感心したり、**「同じグループの〇〇さんと考え方が少し違っているんだけど、どう伝えたらいいかな」**と普段あまり深く意見を交わしたことのない他者と、考えを共有することの難しさを実感したりした様子が見られた。

新型コロナウイルス感染拡大防止のための緊急事態宣言の発令に伴い、学年を越えての話し合い活動は延期となったが、課題に対し、他者と意見を交わし、協働して社会を創っていく過程を体験することができた。

【活動③『さまざまな人たちの考えを基に自分の考えを深めよう！』】他者の意見を踏まえて意思決定をする活動

活動②が終了した後は、他者の考えを聞いたり、話し合いの中で出てきた新しい考えを踏まえたりすることを通して、各自が自身の生活を振り返り、今後の自己の行動について意思決定をする活動を計画していた。残念ながら、こちらの活動も延期となってしまったが、活動を通して生徒は、一人では気付けなかった新たな視点や発想に触れ、他者と考えを交わすことの意義を学び、自己の意思決定に生かす体験ができたのではないかと考える。

本活動を通して見られた子どもたちの変化の様子・その先の取組み・成果と課題

変化・様子

・生徒は現状の学校生活にあまり不満や不自由さをもっていないようだが、「さらに南中の魅力を上げる」という課題に対し、自分たちの力でよりよい南中のあり方を考えるようになり、授業を重ねるごとに身の周りの社会をよりよく変えていこうと具体的に考える姿勢をもつ生徒が増えてきた。

成果

・よりよい南中のイメージを、自分自身だけでなく、南中に関わる多くの人々の視点から考える活動を通して、多面的・多角的な視点から自分たちの身の周りの生活を考えて、表現できる生徒が増えた。
・他者の考えを引き出したり、考えを広げたりしていくために必要なスキルについて学び、話し合いの場面で生かそうとする生徒が増えた。

課題

・身の周りの課題把握から、他者と協働してアイデアを出し合い、自分たちの生活をよりよく変えていこうとする今回のような活動を、今後も学校生活のさまざまな場面で行い、「主体的な社会参画」を意識した姿勢を、継続して育んでいきたい。